Logo

文系学生の統計法に C-Learningを導入する試み

～ドリル等を活用した授業の改善と実践～

ICTを活用した授業設計手法　第１回

お茶の水女子大学
池田まさみ

本日のメニュー

★授業のタイプを見極める

★授業のねらい と C-Learningを使うねらい

★授業の実践例　～文系学生の統計法から～

★C-Learningの効果的な使い方とは

本日のメニュー

★授業のタイプを見極める

★授業のねらい と C-Learningを使うねらい

★授業の実践例　～文系学生の統計法から～

★C-Learningの効果的な使い方とは

☆なぜ、授業タイプを見極めることが大切か？

・教養科目（初年次教育）か、専門科目（専門コース教育）か

・文系学生のための理系科目か、理系学生のための文系科目か

文系学生のための文系科目か、理系学生のための理系科目か

・知識習得タイプか、スキル習得タイプか、テクニック習得タイプか

・講義形式か、ゼミ形式か

・人数は30人以上か、10人以下か

C-Learning：出席管理、アンケート、教材倉庫（資料）、ドリル等

・どのように組み合わせるか？

・例えばアンケートでは、テキスト式（自由記述）にするか、選択式にするか？

☆なぜ、授業タイプを見極めることが大切か？

- 教養科目（初年次教育）か、専門科目（専門コース教育）か
- 文系学生のための理系科目か、理系学生のための文系科目か
  文系学生のための文系科目か、理系学生のための理系科目か
- 知識習得タイプか、スキル習得タイプか、テクニック習得タイプか
- 講義形式か、ゼミ形式か
- 人数は30人以上か、10人以下か

C-Learningの使い方次第で、授業効果は大きく変わる可能性がある！

本日のメニュー

★授業のタイプを見極める

★授業のねらい と C-Learningを使うねらい

★授業の実践例　～文系学生の統計法から～

★C-Learningの効果的な使い方とは

本日のメニュー

★授業のタイプを見極める

★授業のねらい と C-Learningを使うねらい

★授業の実践例　～文系学生の統計法から～

★C-L

・出席管理を活かす
・アンケートを活かす
・ドリルや教材倉庫を活かす
★リアルタイムのやりとり（双方向性）を活かす
など

（例）文系学生のための統計法

「人間科学方法論」授業のねらい

人間科学では、実験や調査によるデータを扱うことが必須となる。本講義では、データの処理、データからの推定、検定など、統計の基礎知識と統計的な思考方法について学ぶ。

与えられたデータから、平均、分散、相関係数、回帰直線などを求めることができるようになること、また、正規分布表やカイ二乗分布表などを用いて帰無仮説の検定が行えるようになることを目標とする。

授業計画

授業の進め方ポイント
予習、復習が大切だが・・・
学生はなかなか予習はしてこない
復習を充実させる

C-Learningを活用するねらい

- 人間と科学
- データを数値で表現しよう
- 2つの変数の関係を記述しよう
- 差を吟味する方法とは
- 平均値の差を検定しよう

評価

- ・リアクションペーパーと同様
- ・毎回、5問程度（ポイント質問）
- ・授業後に記入（時間外でもOK）
- ・次回授業時に紹介
- ★ドリルと教材倉庫も活用！

★出席 20%

C-Learningによる「アンケート」などの提出

★期末試験 80%

7月30日

課題提出および質問等連絡先

池田まさみ ikeda.masami@ocha.ac.jp

または、C-Learning「相談室」を利用

本日のメニュー

★授業のタイプを見極める

★授業のねらい と C-Learningを使うねらい

★授業の実践例　～文系学生の統計法から～

C-Learning上で実際にみてみましょう！

★昨年度の統計法の授業との比較
- ・アンケートにおける質問方法を改善すると！
- ・ドリルや教材倉庫の活用状況
- ・C-Learningに対する学生の評価アンケート

★授業タイプによるC-Learningの使い方を比較
- ・リアルタイムのやりとりが活きる授業とは！
- ・C-Learningの記入時間について

C-Learningの設計と効果的な使い方

提案1．授業のタイプを見極める

（初学年次か、基礎知識習得型か、講義形式か、など）

提案2．授業のねらいと同時に、C-Learningの使い方のねらいも定める

（出席管理か、リアルタイムの情報共有型か、予習・復習か、など）

提案3　アンケートの使い方

「理解度」は、キーワードごとに問いを設定する！

→ 次回の授業の進行状況を見極める鍵になる！

単に、授業全般としての「理解度」や「興味・関心度」という問いでは、学生の真の回答を把握することはできないので注意が必要！

→ 良い問いは、良い授業に発展する可能性あり！双方向性の充実！

★C-Learningの効果的な使い方とは

提案3　アンケートの使い方

「理解度」は、キーワードごとに問いを設定する！

→ 学生にとっては、アンケートがその日の学習の「復習ダイジェスト版」として機能することで、回答意欲の持続性につながる！
学習の理解度も進む可能性あり。

提案4　ドリルや教材倉庫を充実させよう

→ 教科書やプリントによる復習を促すだけでは、学生の復習レベルを把握しきれない。チャレンジしたことも評価対象にするなどの工夫も。
→ 学生が独学で復習する機会をより拡げる。理解度も進む可能性あり。
→ 授業に出られなかった学生も、教材倉庫で資料を確認できる。また、授業時の虫食いプリントの完全版を提示しておくことで、復習を促す。

★C-Learningの効果的な使い方とは

提案3　アンケートの使い方

「理解度」は、キーワードごとに問いを設定する！

→ 学生にとっては、アンケートがその日の学習の「復習ダイジェスト版」
として機能
学習の

提案

→ 教
把
→ 学生が
→ 授業に出られなかった学生
で資料を確認できる。また、
授業時の虫食いプリントの完全版を提示しておくことで、復習を促す。

欲張りすぎないことも大切！
リアルタイムのやりとりを最大限に発揮
する授業タイプもあれば、
臨機応変に取り入れる授業タイプもある